

(別紙様式) 令和2年度 学校自己評価システムシート (私立武陽学園 西武台高等学校・西武台新座中学校)

(A3判横)
R3・3・29 資料

目指す学校像	将来の社会の変化に対応できるしなやかな知性と耐性のあるたくましい精神の育成。 大きな社会変化の下においても、生涯にわたる学び方を学び、学び続ける方法を身につけさせる。
重点目標	1 校訓を尊重する学校運営を基礎に、豊かな体験をすることで耐性のある心を育成する。 2 長期計画施策を基軸に、進学実績の向上を目指す。 3 「いじめのない学校」「災害に強い学校」を堅持し、安全・安心な学校づくりの推進する。 4 学校行事・部活動の充実をはかり、心技体の調和のとれた、明るくたくましい健全な精神の育成を推進する。 5 中学校・高等学校一貫教育コースの特徴を更に強化する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価は学校評価懇話会及び、第三者評価委員の選定状況

第三者評価委員会 出席者 関係者 3名 学校評議委員会 出席者 関係者 3名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価 (令和3年3月29日までの経過)		実施日	未実施
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の中間報告	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・評価・要望等
1	学習環境と学力の向上	・生徒の学力伸長を重点とし、主体的・能動的な姿勢の育成 ・探究・問題解決力の育成・英語力、特に英検の資格認定を推進 ・ICT活用力の育成伸長	・授業評価実施と評価に基づく改善 ・英検等の資格試験への必修推進 ・きめ細やかな研修の推進 ・学習ソフト「すらら」による英語力の向上を推進 ・英語会話授業ベルリッツの導入 ・リモート授業の実施	・生徒進路第1希望実現の伸長度 ・「アクティブラーニング」の活用・工夫度 ・電子黒板・タブレット端末の利用度 ・情報活用力とその効果の確認 ・リモート授業の充実度 ・ベルリッツの効果	・コロナ禍のため、十分な調査が出来なかった ・授業評価実施は秋に実施。従来と違った意味で評価の見直しがなされた。 ・ベルリッツは好評であった。 ・アクティブラーニングの授業が大幅に行われるようになった ・ICT活用は大きな進捗が見られている。	A	・学習と進路の選択を強制力ある指導を実施。特に英語3級 ・学習意欲向上にはコンピュータソフトの導入と特に2・3年に英語の学習を導入し更に活用を図りたい。 ・ICT活用は昨年度よりも実際の活用を目指し特別助手も変更したい。 ・学びコーチングの活用を推進	学校関係者からの意見・評価・要望等 第三者評価委員の構成 令和2年度は第三者評価委員のうちお一人に事故があり、後任の補充がきかず、更にコロナ禍のため会合が持てなかった。そのため今年度中は第三者評価は実施出来なかった。 来年度は、しっかり集まり実施したい。
2	進路指導	・進路指導の計画等の見直しと今後の対応の改善 ・計画がやむなく中止となった学校行事の教育的効果を再確認とする ・コロナ禍に負けず第一希望実現と進路指導の在り方の新しい方策を目指す	・日常的に実施している塾主催の進学補講と長期休業中等の指導 ・就職活動の支援と充実 ・難関校・上位校受験の特別対策指導の実施とその参加度 ・キャリア教育の充実	・難関校・上位校、中堅大学等の進学実績の伸び率 ・家庭学習時間の伸び率 ・就職先の確保の状況 ・探究内容等の記入及び調査書への活用の実現度	・進路実績の伸びは今後の結果。 ・就職は順調である ・受験に対する3年生の意識の取り組みがまだまだである。 ・夏期講習や勉強合宿は実施出来なかった。 ・中学校自立学習ノート等の活用は、順調であった	B	・きめ細かな進路指導が更に必要。 ・進路は依然として都内の大学は狭き門となっており、更に一層の対応が必要。 ・就職結果は今年もよかった。 ・ポートフォリオの活用をどうするかが今後の課題。	
3	生徒指導の推進	・基本的生活習慣の育成 ・活動できる範囲での学校行事 ・特別活動・部活動の充実。 ・交通事故防止の徹底 ・いじめ防止やハラスメントへの対応の推進 ・防災意識と避難方法徹底 ・SNS利用上の注意と心得の修得	・挨拶の日常的励行の指導 ・服装等の規定の遵守とその指導の在り方を統一化 ・自転車の安全な乗り方指導強化 ・スマートフォン等の使用マナー改善 ・個人情報の拡散防止とその危険への啓蒙活動を進める ・相談室の活用充実 ・防災訓練実施と地域との連携	・基本的生活習慣の確立状況 ・自転車による交通事故の減少数 ・特別活動・部活動の成果 ・いじめ防止効果の有無 ・相談室の活用とその効果 ・インターネット、スマートフォン使用方法等のトラブル防止効果	・1年集団宿泊研修は未実施。 ・自転車の指導は早期に通学路で職員の指導が行われている。 ・各部活動はコロナ禍のため活動のみで精一杯であった。 ・相談室は活用が多いが難しい。 ・いじめはアンケートをとり対応とする予定である ・携帯使用には啓蒙を更に実施。	A	・この分野では指導の結果が出ている。ただしスマートフォンの使い方は絶えず啓蒙活動をしているが、生徒が変わるたび一からの指導となる。来年も地道に実施予定である。 ・いじめのアンケートは実施し大きな課題はなかった。	
4	研修体制の拡充	・教師として、高いモラル意識の自覚向上の為に研修体制の充実 ・新規採用教職員の研修システムの充実 ・ハラスメントに対する意識改善 ・ICT活用授業と授業改善	・初任者、10年次等を含め、計画的な研修の実施 ・年間を通じ授業公開を実施 ・授業評価の活用 ・ハラスメントへの資料啓蒙	・初任者研修実施結果の指導力評価 ・10年次等の中堅教員への研修への意識改善効果 ・きめ細かいICT活用特に電子黒板の活用度及び能動的授業への効果	・新しい教育改革の意識を共有するため若い教師中心の研究会を実施した。これを生かしたい。 ・新任の研修会は今年も組織的計画的に実施をした	A	・研修会は新任研修を含め予定通り実施出来た。 ・教員の生徒に対する捉え方が年々ドライになり担任としても対応が十分でない。その指導が必要。 ・どのようにして職員のモラル意識の向上を図るかが今後の重要な課題	学校評議員評価 実施日 令和3年3月6日 学校評議員構成 保護者会関係者 3名 今年は新座市関係者をお呼びしての会合を持つことかコロナ禍のため出来なかった。保護者会関係者のみであったが、令和3年3月6日資料を配付し評価を戴いた。 評議員評価 A
5	開かれた学校づくり	・授業及び教育内容の公開 ・ホームページへの充実 ・国際理解教育の推進	・学校説明会及び、中学校・塾等の連携を強化し、中学入学者の増加 ・ホームページ発信の改善 ・可能な範囲でのオーストラリア校とのフレンドシップ交流事業の推進	・第三者評価委員会の評価を含めた学校自己評価の公開 ・オープンキャンパスによる学校体験の充実と効果	・学校評価等・経理も公開 ・ホームページは大幅に改善された ・高校の募集は順調である。 ・ホームステイバンクは立ち上がった。	A	・高校の募集が今年も様々な対応を試みしその数が反映された。 ・中学校はやっと増加となった。	